

天水

湯浅 晴日

雨。川や海は雲となり、やがて雨となる。
雨はそれを絶えることなく続けている。雨が
なくては川や海の水は無くなっているかもし
れないし、人々や動植物が生きるのも今より
あっと過酷になるであろう。雨があることで
水は様々なところに行き渡る。だから、水も
雨も、私たちの命綱と言っても過言ではない。
私たちの命綱は、ダムや川から浄水場を経て
家や工場などに届けられる。それが、私達に
とって当たり前になっている。では、その命
綱が、私達の元に届かなくなるとなるの
であらう。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災。私
は宮城県紫田町にいた。インフルエンザで幼
稚園を休んでいた日だった。幼かった私は揺
れていた時のことをあまり覚えてはいない。
だが、唯一覚えているのが、水が十日間くら
い止まってしまったことである。水が止まり

自衛隊の人が持つてきてくれる給水所に徒歩で水をもらいに行ったりした。トイシの水は、お風呂に残っていた水を使った。一回流すのに大量の水を使うので、すぐに足りなくなつて、家族全員で川に水をくみに行つた。くんだ水を運ぶのはとても大変だ。たらしい。お父さん、お母さんはとても苦勞したと思う。それなのに私はその大変だ。にことをぼんやりとしが覚えていないのが本当に申し訳ない。た。だが、給水所の長蛇の列に家族で並ん

だことは鮮明に覚えている。普段なら長蛇の列に並ぶのは誰でも苦痛であろう。それでもこの時、恐らくそこに並んでいる人は誰一人嫌な顔をせず並んでいた。なぜなら、ここにいたみんなが命綱をもらいに来たからである。いつもなら当たり前前のごことが当たり前前じゃなくなつた。水は人間にとつてなくてはならぬ物なんだ。水って大切なんだ。大げさだと思つてもいるがもしれない。しかし誰もか思つてゐる以上に、大切という言葉では足

りないくらい、水は私達の生活になくてはならないものなのだ。

地震は、いつ起こるか分からない。地震などの災害によって水道が止まる可能性もある。そこで私は雨水タンクをそれぞれの家庭に設置するのはいかがでしょうか。雨水タンクは、非常時の生活用水に使うこともできるし、大雨が降った時一度に水が放出されるのを多少とも軽減することができるとも。自然の恵みを貯めて利用することができるとも。以前住んでいた

地域には「天水桶」という物が公民館に設置されて使われていた。「天水桶」とは江戸時代から防火用水として雨水を貯めていた物でまさに現在の雨水タンクである。「雨水」を「天水」と呼んでいた意味には「とさせられる。天からの「水」のありがたさを感じながら大事に使って生活していきたいと思う。